

総合計画審議会の審議状況について（第5回袋井市総合計画審議会 議事要旨）

第3次総合計画 基本構想(素案)について [まとめ]

【開催概要】

第5回袋井市総合計画審議会を、以下の通り開催しました。
第5回の意見交換では、第3次総合計画基本構想(素案)について、各委員からご意見を頂きました。

日時	令和6年11月11日(月)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット あきはホール
内容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 第3次総合計画基本構想(素案)について (2) 意見交換 4 事務連絡 5 閉会

【意見交換での主な意見】

- 計画づくりには抽象化と具体化が必要。基本構想に求められる抽象化の整理については、概ね整ってきているので、今後、「にぎわい」を生み出すための具体的な計画や場の設計、未来への投資が重要となる。
- 基本的な考え方や方向感は、よくまとめられている。これからの時代は、デジタル化を徹底し、人間は人との繋がりの部分で付加価値を高め、地域コミュニティの持続と多様性の尊重に注力すべき。
- これまで議論した過程の整理を踏まえ、重要なキーワードは拾えていると思う。若者が育つ・集まるような魅力的な場を作り、人との繋がりがや地域活動を持続していくための仕組みづくりが重要だと考える。
- 今後、具体的な施策に落とししていく際は、数値目標を設定し、総合計画の進行状況を把握することが重要となる。まちの将来像の表現方法については、イラスト以外の手段を含め、より良い方法がないか再度検討すべき。
- 資料は分かりやすくまとめられているが、若い世代が「にぎわい」を実感しているのかなど、このまちのイメージとのギャップや人との繋がりに対する負担を感じる方への配慮など、全ての人に響くビジョンや具体策があると良い。
- 人口減少を緩和するため、今このまちで暮らしている住民や移住してきた方が楽しく過ごせ、また一度、このまちを出た学生や外国人が「袋井市で住みたい」と思っただけのようなまちの将来像が表現できると良い。
- 「にぎわい」という言葉は、温かみがあって受け取りやすい言葉だと捉えている。人口減少や財政難の中、より良いまちを実現するためには、市民の自主的な取り組みなど、協働や共創の考え方がこれまで以上に重要になる。
- 「にぎわい」を作るには、女性が働きやすく活躍できるまちでなければならないと考える。また、計画の推進段階では、市民と取組の進捗状況を共有し、相互の理解を得ることが重要となる。
- 普段の生活の中で、市内のどこが「にぎわい」の場所かと言われると疑問。これから「にぎわい」を生み出していくのであれば理解できるが、現在の「にぎわい」を継続させていくイメージを受けるため、言葉の使い方を再考した方が良い。
- 事務局案のまちの将来像は、他の市町でも使えてしまう。インパクトのある表現で袋井市の魅力を強調し、さすが袋井と言われるようなものが出てくると、もっと袋井を好きになると考える。
- 「にぎわい」は世代を超えた交流・イベントなど、人との繋がりにから自然に生まれるものと捉えている。
- 健康寿命がトップレベルであることも袋井市の強みであり、こうした特長を考慮すべきと考える。適切な言葉を用いて、スポーツや交流など楽しいまちであることが伝わってくる基本目標、街の将来像となると良い。
- これまでの議論から、繋がりがまちの活性化や市民生活の満足度に重要であると感じた。人との繋がりがや交流を想起させる言葉として、「にぎわい」という言葉は良いと思う。
- 若者は、人との繋がりを求めている。挑戦やにぎわいがある地域に魅力を感じるので、まちの将来像に「にぎわい」が入っていることは若者にとって共感が持てる。
- 人との繋がりがないと、経済的・精神的なまちの繁栄が難しいと思うと、「にぎわい」という言葉は、これからなりたい袋井市を集約した良い言葉だと思う。「にぎわい」のなかで、人と人が交流しながら、繁栄する袋井市であって欲しい。
- 「にぎわい」に関連する言葉として、「笑顔」、「魅力」、「繋がり」、「挑戦」とあるが、基本目標の中でも「挑戦」というキーワードが入ると良い。挑戦という言葉には、失敗しても良いというコミュニティの寛容さがあると思う。
- 特色があり、キャッチーな表現も大事であるが、市民と目標を共有することが重要であり、どのように「にぎわい」という言葉を定義づけるのかなど、本質的な議論を深めることで、袋井市ならではの言葉になると考える。